

「がん・小児がん を学ぶ」教育の推進について（がん対策推進協議会 委員資料）

2019.6.28 鈴木中人

1. 「いのち と がん・小児がん を学ぶ本を学校に届けよう」プロジェクト

- ①目的＝「いのちの授業」「がん・小児がん教育」「小児がん支援」啓発を願う
- ②内容＝・10歳代向の本を出版（子どものための「いのちの授業」、鈴木中人著、致知出版社、2019年3月）
 - ・全国の教育委員会、学校、関係団体（日本対がん協会等）に、2700冊を献本
 - ・本を活用した教育セミナー等の開催（東京、愛知、京都）

2. 「がん教育」の歩み

- ・2012年 第2期がん対策推進基本計画 →がんの教育・普及啓発
- ・2014年 「がん教育」の在り方に関する検討会（文科省）
- ・2015年 学校におけるがん教育の在り方について（通知）
- ・2018年 第3期がん対策推進基本計画

3. がん教育の現状と充実ポイント（現場体験を通じて）

- ・全国の学校で取組まれていることは画期的。教育現場の実情等に応じて、一步一步、進捗中。
- ・がん対策推進基本計画の全体目標に基づき、継続的にステップアップしていくことが大切。

(1) 第2期がん対策推進基本計画（2012年）との状況

基本計画 (国)	<p>○全体目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんによる死亡者の減少 ・すべてのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上 ・がんになっても安心して暮らせる社会の構築 <p>○分野別施策及び個別目標</p> <p>「8. がんの教育・普及啓発」</p> <p>子どもに対しては、<u>健康と命の大切さについて学び</u>、自らの健康を適切に管理し、<u>がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識</u>を持つよう教育することを目指し、5年以内に、学校での教育のあり方を含め、健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにすべきか検討し、<u>検討結果に基づく教育活動の実施</u>を目標とする。</p>
文科省 (通知)	<p>○がん教育の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>がんについて正しく理解</u>することができるようにする ・<u>健康と命の大切さについて主体的に考える</u>ことができるようにする。

	<p>○がん教育の具体的な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がんとは」「がんの種類とその経過」「我が国のがんの状況」「がんの予防」「がんの早期発見・がん検診」「がんの治療法」「がん治療における緩和ケア」「がん患者の生活の質」「がん患者への理解と共生」 →<u>一次予防（生活習慣の改善等）、二次予防（がん検診等）について理解できるようにする。</u> <p>○留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育活動全体での推進」「<u>発達の段階を踏まえた指導</u>」「外部講師の参加・協力」「<u>がん教育で配慮が必要な事項</u>」→小児がんの当事者などがある場合等
課題と 充実方向	<p>① 発達段階に応じた「がん教育体系」の見える化・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校（低学年・中学年・高学年）、中学、高校の段階ごとに、教えることを明確化 <p>② 小児がんは、留意点ではなく、教えるべき「具体的な内容」にする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人のがん中心で、「大人の世界のこと＝自分ごとになっていない」面も ・小児がん 2000～2500 名/年 発症、病名を告知、治癒率 70～80%、学校は生きる力 学校現場＝がん当事者（小児がん患児）とがんを支える人（同級生・仲間）が共生 ・将来事ではなく、喫緊の教育課題として「小児がん」を学び理解し合う <p>③ がん教育の目標＝命の大切さについて主体的に考える「具体的な内容」の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん教育（指導案）の中に、命を考えるプログラムを織り込む

(2) 第3期がん対策推進基本計画（2018年）との状況

基本計画 (国)	<p>○全体目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実 ・患者本位のがん医療の実現 ・<u>尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築</u> <p>○分野別施策及び個別目標</p> <p>「2. がん医療の充実(7)小児がん、AYA 世代のがん」</p> <p>「3. がんとの共生(5)ライフステージに応じたがん対策①小児・AYA 世代」</p> <p>「4. これらを支える基盤の整備(3)がんの教育、普及啓発」</p> <p>国は、全国での実施状況を把握した上で、地域の実情に応じて、外部講師の活用体制を整備し、<u>がん教育の充実に努める。</u></p>
文科省	<ul style="list-style-type: none"> ・がん教育の在り方を整理、中学校及び高等学校の新学習指導要領に明記、がん教育の実施状況の調査等

<p>課題と 充実方向</p>	<p>① 第3期の全体目標を見据えて、「がん教育の具体的な内容」を充実する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的根拠 →ゲノム医療、遺伝子診断など最新医療情報の提供 ・患者本位のがん医療 →患者の権利や責任（知る権利、自己決定権、プライバシー） ・がんと共生 →小児がん、AYA世代についての学びと理解 <p>② がん対策推進基本計画の策定に応じて、継続的に「がん教育の在り方」を見直す仕組み化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領ともリンクさせながら
---------------------	---

4. がんの教育、普及啓発に対する提案

・新たな「がんに関する教育のあり方検討会」にて、現状の課題及び第3期がん対策推進基本計画の全体目標等を踏まえて、「がん教育」の実施内容を充実する。

（がん教育体系、小児がん・AYA世代、命の教育、科学的根拠、患者の権利や責任等）

・特に、小児がん・AYA世代については、教えるべき「具体的な内容」として、早急に教育実践する。

以上